

香川

支局長 からの 手紙



香川県の「てしま」と聞けば、土庄町の豊島を思い浮かべる人が



今年4月、手島港近くの道路脇に花を植えた後、記念のカメラに収まる参加者。尾崎美恵さん提供

多いでしょう。私も高松に赴任するまでは豊島しか知りませんでした。丸亀市沖の塩飽諸島に手島という島があることを知り、関心を持つきっかけをくれたのは、NPO「四国夢中人」代表の尾崎美恵さん(64)です。

丸亀市に住む尾崎さんは、フランスで四国をPRする活動を2008年から続けてきました。欧州のプロガーラを四国に招き、案内をしている中で瀬戸内海の魅力を再認識させられたそうです。ただ、「アートの島」としてにぎわいを見せる直島のように、その魅力を十分に生かしている事例は限られており、多くの島は過疎と高齢化が深刻化しています。

多くの手島もその一つです。戦後間もない時期には約600人が住んでいましたが、現在は20人ほどに減っており、島民の平均年齢は80歳近いということです。

手づくりの島おこし

尾崎さんは昨年から京都大学の学生サークル「農業交流ネットワーク」のメンバーや島民らとともに手島の活性化に取り組んでおり、今年は「花と昆虫の楽園キャンペーン」を展開しています。

4月の活動には約90人が参加し、県立香川丸亀養護学校の生徒が育てたキンセンカなどの花の苗2000株を手島港近くの道路脇に植え付けました。昨年の活動で竹林を伐採した後、粉碎してできた竹のチップを置いていた場所では、カブトムシの幼虫が数多く見つかり、参加

した子どもたちが歓声を上げました。

私も先月、島を訪れてみました。道路脇に並ぶ花々から尾崎さんたちの「島を元気にしたい」との思いが伝わってきました。西浦海岸の近くには島民が植えたヒマワリが一面に広がり、黄色い花と青い海とのコントラストに息をのむ思いでした。一方で、空き家となった住宅も目立ち、島が直面する現実の厳しさも感じました。

尾崎さんは「資金がなくても、人とつながることで活動の輪が広がってきた。今後も多くの人に島の魅力を感じてもらえる活動を続けたい」と話しています。まさに手づくりの島おこしは、豊かな自然が残る島の魅力にさらなる輝きを添えているようです。

面積3・4平方キロ、周囲10・9

【高松支局長・成沢健一】